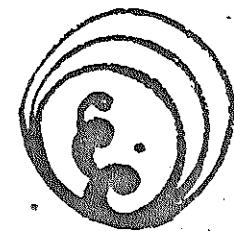


勝林寺仏教婦人会長
宮嶋幸子さまの
哀悼のことば



長い梅雨が明け本格的な夏がやってまいりました。

本日ここに私達仏教婦人の最も敬慕する勝林寺坊守さまのご逝去に当たり謹んで哀悼のことばを申しあげます。

坊守さまにはここ三年半という長い闘病生活の日々をおくられておりました。その間、私達仏教婦人の日々の願いは、ご快癒の日の一日もはやからんことを、そして再びあの美しい澄みきった朗々たるお声に、また花火のひらくようなあのほほ笑みに、お出会いできることをこれから待ち侘びておりましたのに。

いま、思いがけない悲報に接し、私どもの驚きとかなしみは、筆舌につくしがたく、世の無常に泣くばかりでござります。誠に大きな痛撃でございます。

坊守さまには永年のあいだ、勝林寺の坊守として、明るく積極的に、ご院家さまと共々にお寺の発展に力をつくし努力してくださいました。

長い間ご病気のお姑様のお世話をこころからなさり、三人のご子息ご令嬢を立派にお育てになりました。そして現在、七人のお孫様がすくすくお育ちの様子を日々の楽しみとされておりましたのに。ご寺族様方のお悲しみを思いますときに私達、誠においたわしく、痛恨の極みでござります。

思いおこしますれば、昭和四十二年より、勝林寺仏教婦人会の大事情などとして、「子ども研修会」をお始めになり、お念仏のいのちとともに生きさせてい

ただく婦人の出会いを大切にし、ことに若いおかあさんと共にほとけの子をしてましょとご努力いただきました。

子供たちに囲まれながら、あの器用な手つきで手芸や工作を教えてやってくださいました。あの姿がまのあたり浮かんでまいります。

「今年も、研修会の日が近くなっています」
「八月二十日にはお寺にかえれるといいに」と涙しながら話してくださいました。それからいつものように

散る桜 残る桜も

と口づされ、「お陰さまで」と、お念佛申しておられました。

人の幸と不幸はあざなえる縄の如し。

あのような重い病に伏しておられても、いつも大きな目をしっかりと見開いてお念仏と共に、聞法の悦びを分かち合え
る仏婦であつてほしいですネ」とつねづね話してくださいました。

今はただ、その坊守さまのほんとうのお心を、しっかりと受け止め、ともに励んで参る所存でござります。

いつまでも、いつまでも、あのお美しい坊守さまは私たちのこころに生きつづけてくださることでございましょう。坊守さまはキット、お淨土へお還えりになつても、今度はもう一度お淨土から、あのおうつくしいまなざしで見守りお導きくださいるに違いありません。

ここに坊守さま永年の御苦労にこころから感謝申し上げ、誠に粗辞ではございましたが、仏教婦人会を代表して弔辞とさせていただきます。

それがおばあちゃんだったのです。

そのついでに、アメリカからかえつている四年生になる男の子の間に、おばあちゃんがご本山のご門主さまからいただかれた「三明院」の院号のことをはなして聞かせました。

おばちゃんのことのころの名前は三明瞭子でした。

それからまた、三明というのは、如来さまの目の三つのお力を言います。

お釈迦さまもこの三つの目のちからを身に着けてほとけさまになられました。

一つは宿命通じくみょうう。過去のことが見える目の中からです。二つめは天眼通てんげんつう。これから未だ見抜ける力です。

はどうなるかということがはつきり見えます。そして三つめは漏尽通じんつう。現在のものの本当のすが

ほとけさまはいつもこの三つの目でもつてわたしたちを見つめ見通しておられるのです。

人にはごまかせても、また自分にもみえなくても、如来さまはいつでもどこにいても、この目のお力でお見通しなのです。

如来さまになつたおばあちゃん。三明六通、真如のおつきさまとなつていつでもどこでも見ていて下さるのです。

おばあちゃんのお名前は

三明院釈瞭月

孫たちは真剣な顔をして、うなづいて聴き入りました。

お葬式一切がかたずいて遅い夕食にかかるところ、雨後晴れ上がった東の空に大きなお月さまがうかび出てまいりました。

あつ、まんまんちゃんだ。
二才半の孫は例によつてかわいく手を合わせておがみました。

孫のははおやが
そうや、おばあちゃんが、あそこからみてはるのやで
とおじえました。

☆
八月八日
午後一時より

于血蘭分皿△云
戦汎者召追悼法事

族には部落ごと代議員を通じ後日ご案内します。

○実施要綱は後日配布します。
○仏婦評議員がお世話を願い致します。

子供研修会
八月一十一日

0796-523083

ご挨拶

三年余にわたる皆様がたの手厚いお見舞いご看病をいただいたにもかかわりませず 勝林寺坊守西口池照子 去る七月二十五日 午後八時五十二分 公立出石病院において往生させていただきました

引き続き通夜並びに葬儀執行に当たりましても皆様方の格別のご親切を頂戴致しましたことでございます

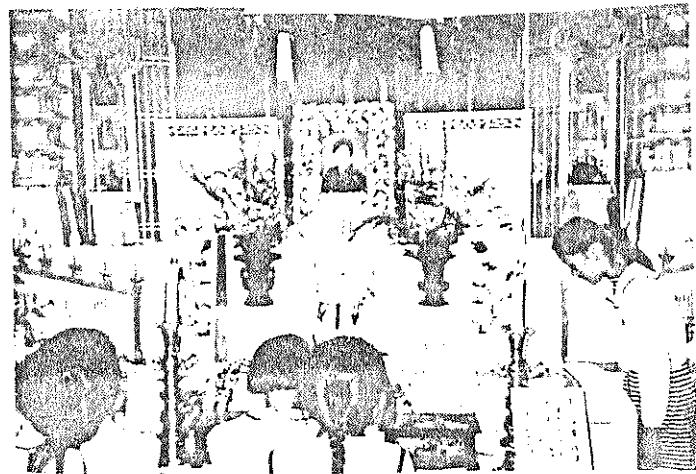
かねて覚悟とはいえ わたしども親族 悲嘆のあまりとりみしております 皆様 方に対し随分と礼を欠きましたこと 誠に恥ずかしく申し訳なく存じます 深くお詫び申し上げます

七七日遅夜のことを含め 以後なにかとお世話になりますが 何卒故人同様ご愛顧ご鞭撻賜りますよう 親族一同伏してお願い申し上げます

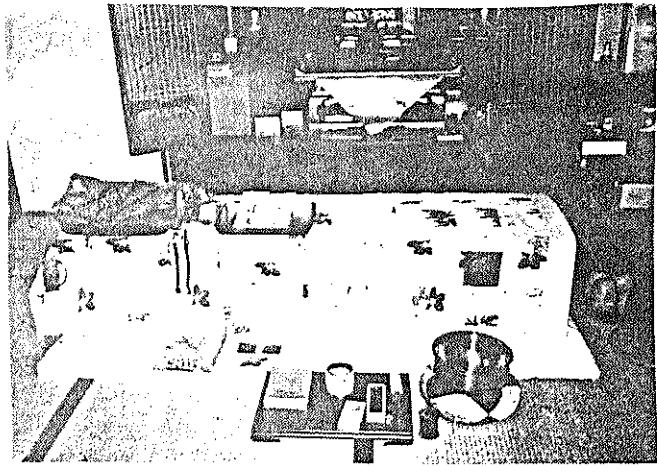
七月三十日

勝林寺住職
西池

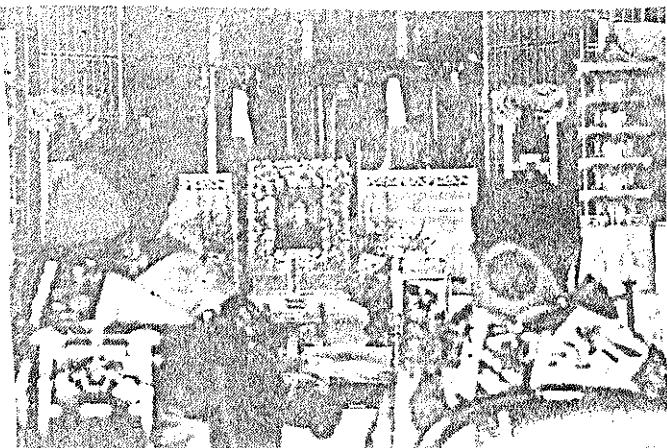
折口俊



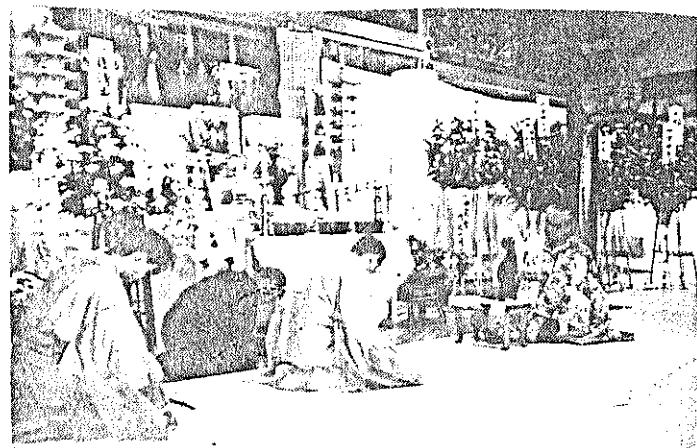
26日 通夜



25日 納棺



27日 葬場勤行



27日 達書伝達



火葬場



葬送